

一、《春秋事語》と戦国策士……………	高橋 均……………	16
一、苦吟派の詩—孟郊試論—……………	横山伊勢雄……………	32
一、王統照第一短篇集の評価をめぐって……………	広野 行雄……………	51
一、教育課程の改訂と漢文の授業……………	上田 武……………	63
一、「陶淵明の詩文の読解指導覚え書き・統一」……………	吉原 英夫……………	79
一、「項王笑曰、『天之亡我、我何渡為』」などについて……………	……………	85
○学会 彙報……………	……………	85

5号 (『漢文学会会報』42号) 一九八四年刊	……………	……………
一、鄭玄の「曰若稽古帝堯」解釈をめぐる問題と『周礼』国家……………	間嶋 潤一……………	1
一、阮籍の「首陽山賦」について……………	沼口 勝……………	13
一、杜子春Ⅱその虚像と実像……………	西岡 晴彦……………	23
一、陳子昂の詩における叙景の特色をめぐって……………	加藤 敏……………	39
一、西昆体の余派について……………	高橋 明郎……………	51
一、『和漢朗詠集』中の日本漢詩について……………	山野清二郎……………	63
一、漢籍・読書・漢文考……………	千原 勝美……………	80
○学会 彙報……………	……………	92

6号 (『漢文学会会報』43号) 一九八五年刊	……………	……………
一、仲長統について……………	堀池 信夫……………	1
二、『阮籍と『詩経』—四言詠懐詩』を例として……………	沼口 勝……………	15
三、陶淵明「始作鎮軍參軍、經曲阿作」詩について……………	……………	……………

四、庚信「思旧銘」について……………	上田 武……………	30
五、再論杜子春伝……………	中野 将……………	49
六、李賀と時間……………	内山 知也……………	59
七、梁啓超における啓蒙思想の理念—その形成と問題—……………	河田 聡美……………	73
○学会 彙報……………	佐藤 一樹……………	89

学 会 彙 報

○昭和六十年年度大塚漢文学会大会
六月二十二日(土)

於東京都教職員互助組合教育会館

〔研究発表会〕	……………	……………
一、「則個」考—《水滸伝》百二十回本の用例をめぐって—	筑波大学大学院 阿部 博幸氏	……………
一、幽風七月の特質をめぐって	筑波大学大学院 増野 弘幸氏	……………
一、元結の詩について	筑波大学附属高校 加藤 敏氏	……………
一、傳雷とその家書について	愛知大学 白井 啓介氏	……………
一、莊存与の「春秋要旨」について	筑波大学 中村 俊也氏	……………
一、阮籍の四言詠懐詩について	山形大学 沼口 勝氏	……………
一、龔自珍の「宥情」と戒詩について	……………	……………

〔漢文教育シンポジウム〕

「高校漢文教育における指導法をめぐって」

国学院大学 中村 嘉弘氏

司会 栃木高校 加藤 章氏

立川高校 町田 義春氏

山添高校 菅原 直香氏

上野高校 渡辺 雅之氏

志賀 委員

加賀 委員長

向島 委員

伊藤 委員

中村(俊) 委員

中村(俊) 委員

水沢利忠、内山知也、田部井文雄、伊藤虎丸、高橋 均

中村嘉弘、向島成美、中村俊也、大上正美、堀池信夫の

十氏を選出

(4)その他

六、閉会の辞

○月例会

水沢 委員

昭和六十年十一月三日(日) 於桜蔭会館

一、李商隱の初期の詩風について 筑波大学大学院 加固理一郎氏

一、「山堂清話」について 筑波大学大学院 松村 茂樹氏

○昭和六十一、六十二年度委員会

委員 長 水沢利忠

副委員長 内山知也

総務・企画 田部井文雄、高橋均、中村嘉弘、向島成美、中村俊也、加藤敏

〃 庶務 松本肇、増野弘幸、三上英司

会 計 堀池信夫、谷口匡、

会 報 編 集 伊藤虎丸、謡口明、大上正美、佐治俊彦、

安藤信広、佐藤一樹、阿川修三

会 計 監 査 横山伊勢雄、田中有

お願い

住所、勤務先などに変更のおりになった方は、お手数ながら、事務局(向島成美宛)または委員まで、御一報下さい。

大塚漢文学会々則

- 一、本会は大塚漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
 - 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
 - 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
 - 1、総 会 年一回
 - 2、例 会 年約三回
 - 3、学会誌及び会員名簿の発行
 - 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
 - 1、委員長 一名
 - 2、委 員 若干名
 - 3、編集委員 若干名
- 六、役員の仕事
 - 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
 - 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
 - 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員を選出及び任期
 - 1、委員長は委員の互選による。
 - 2、委員は会員の互選による。
- 3 委員会が必要に応じて委員を委嘱することができる。
編集委員は委員会が委嘱する。

4 任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額四千円を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない。

附則1、本会は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。以上

編集委員(委嘱)

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠
(文学・語学) 鈴木 修次・内山 知也・伊藤 虎丸
(漢文教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

漢文学会会報第四四号

昭和六一年六月一〇日印刷
昭和六一年六月二八日発行

大塚漢文学会

編輯者

伊藤 虎丸・謡口 明・大上 正美

佐治 俊彦・安藤 信広・佐藤 一樹

阿川 修三

東京都千代田区神田神保町三ノ一〇

株式会社 共立社印刷所

電 (261) 二〇二八

茨城県新治郡桜村

筑波大学文芸言語学系内(二三〇五)

発行所

大塚漢文学会